

報道関係各位

総合政策学部教員が研究協力し、県内の森林資源を有効活用 ラピアス電機によるエッセンシャルオイル（精油）の製造販売開始

本学の総合政策学部の渋谷教授が研究協力し、ラピアス電機株式会社が開発した植物精油「LAPIAS エッセンシャルオイル」の製造販売が開始されましたのでお知らせします。

このエッセンシャルオイル（精油）は、北東北の林業作業により発生する材にならないアキタスギやナンブアカマツ、下生えのクロモジなどの枝葉から抽出したものです。伐採後の林内に放置されている林地残材の活用と高付加価値化を図る取り組みとして期待されるものです。

このたび、ラピアス電機株式会社の福勢慶昭社長が、製造販売開始の報告で本学の鈴木学長を訪問することとなりました。つきましては、当日のご取材・報道についてよろしく申し上げます。

記

- 1 日時：平成27年11月5日(木) 10:30～11:30
- 2 場所：岩手県立大学 学長室
- 3 内容：植物精油「LAPIAS エッセンシャルオイル」製造販売開始の報告
- 4 参加者：ラピアス電機株式会社 福勢慶昭社長
岩手県立大学 鈴木厚人学長
岩手県立大学総合政策学部 渋谷晃太郎教授
- 5 経緯：平成23年、本学総合政策学部の渋谷教授が岩手県工業倶楽部のセミナーに招かれ、豊かな森林資源を有する岩手県内木材から精油を取り高付加価値化することを提案。これがラピアス電機福勢社長の目に止まり、平成24年度に研究参加いただいて蒸留器の開発、製作及び精油の製造を行うと共に、各地の実情等の視察し、製品化を検討した。
その後 ラピアス電気では、蒸留器の改良などを進め、県内外の林業家との連携により原材料の調達ルートを確保し、平成27年9月から5種類の製品（クロモジ、ニオイヒバ、アオモリトドマツ、アキタスギ、ナンブアカマツ）の販売を開始した。



※「LAPIAS エッセンシャルオイル」については<http://www.lapias.co/>をご覧ください。

エッセンシャルオイル（精油）について…植物の花や果実の皮、樹皮、葉、種子などから抽出した100%天然の揮発性の物質で、高濃度の有効成分を含んだ芳香物質の総称。原料となる植物によって異なる香りがあり、海外産の精油がアロマセラピーなどに使われている。日本でも和精油として、西日本ではかんきつ類、東・北日本では主に木材から抽出されている。本件でもアキタスギやナンブアカマツなど、材にならない枝葉から抽出が行われており、林地残材の高付加価値化が図られている。

【問合せ先】 岩手県立大学総合政策学部 教授 渋谷 晃太郎

Email : kshibuya@iwate-pu.ac.jp Tel : 019-694-2746